

## 景観ワークショップの流れとまとめ

西条市では平成 17 年 10 月に景観行政団体へ移行しており、西条市らしい景観まちづくりを進めていくために景観計画の策定を目指しています。西条市らしい景観計画を策定するには、市民・事業者の景観まちづくりの意識を把握し、市民・事業者・行政が協働で景観まちづくりの推進体制をつくることが不可欠です。

今回、市民及び中学生へのアンケート調査の実施、景観ワークショップの開催により、市民が景観を考え、話し合い、まとめています。中でも、10 年後に社会人となる中学生の意見を取り込んでいます。中学生には郷土西条への意識の醸成を図り、将来の西条市景観まちづくりの担い手となるように、また、市民全体が景観まちづくりの実現に向かって取組んでいけるように景観ワークショップを 3 回開催しました。

### 1. 景観ワークショップ 3 回の構成

#### 第 1 回 景観ワークショップ

#### テーマ『景観資源の総量把握』

開催日：平成 26 年 9 月 30 日

場 所：西条市福祉センター

目 的：景観計画を知る。市民景観アンケートの結果を踏まえて、西条市の特性を鑑みた西条市ならではの景観資源を考える。

#### 第 2 回 景観ワークショップ

#### テーマ『景観資源の絞込み』

開催日：平成 26 年 10 月 29 日

場 所：西条市福祉センター

目 的：景観資源をまとめて、景観の課題を話し合う。

#### 第 3 回 景観ワークショップ

#### テーマ『景観資源の分類』

開催日：平成 26 年 11 月 27 日

場 所：西条市図書館

目 的：景観の課題踏まえて、「守る景観」「育てる景観」の方策を話し合う。

## 『西条市らしい景観資源を守り・育て、次世代へ繋げる』

○西条市らしい景観まちづくりを進めていくために景観計画の策定を目指す。

## 2. 景観ワークショップのまとめ

### (1) 西条市らしい景観資源

第1回景観ワークショップでは、西条市らしい景観資源を「自然、歴史・文化、生活」の Kategorii 分類により掘り起こしました。（西条市景観資源位置図参照）

#### 【自然】

西日本最高峰の石鎚山をはじめとする山並み、それらを源流とする加茂川や中山川、瀬戸内海の海、山地を背景とした平野、西条市が誇る自然景観

自然では西日本最高峰を誇る石鎚山、四国山地や高縄山系を背景とした里山や田園風景、豊富な水資源をもたらす加茂川や中山川、自噴するうちぬき、貴重なカブトガニが生息する自然海浜が残された瀬戸内海など山や海、水と緑が豊富な景観を多数有しています。



#### 【歴史・文化】

7世紀後半に築城された永納山城跡、明治維新までの約200年栄えた陣屋町、市之川鉾山等近代化産業遺産などが物語る東予地方における政治・経済・文化の中心地として栄えてきた次世代へ繋げる価値ある歴史・文化景観

歴史・文化では、四国霊場88箇所を含む多数の社寺、旧西条藩陣屋跡、小松藩儒学者近藤篤山氏の旧邸など江戸時代のまち並みを残すとともに、文化財、国史跡の永納山跡、近代化遺産等の史跡が市内随所に分布しています。



#### 【生活】

西条まつりを代表する各地域のお祭り、県内一の水田面積を持つ農村風景、瀬戸内海の水産業、四国屈指の工業集積地、快適で潤いのあるうちぬきと居住環境等の生活景観

生活では合併する前の旧西条市・旧東予市・旧丹原町・旧小松町のお祭りがあげられている。周ちゃん広場や、いもたきなど、農作物を供給する農業生産都市ならではの自然豊かな西条市の生活景観が見られる他、憩いの空間となる公園を多数有しています。アサヒビール工場や今治造船等の企業活動を見せる風景は工業都市としての景観をつくっています。



#### 今と昔で比較

核家族化の進展、少子高齢化による担い手不足や継承問題、自然や生態の変化から失われたものも多く、多数景観が阻害されていることが分かるとともに、都市部の景観の阻害や商店街の衰退、空き家増加等改善すべき点が多数あります。しかし、今も昔も変わらず大切にされている景観もあり、これからも景観を『守り・育てて』いく必要があります。

## 参加者の意見

自然 (西条市景観資源位置図参照 )



①

石鎚山 ※1



②

加茂川※1



③

うちぬき※1



④

黒瀬湖※2



⑤

止呂峡※2



⑥

桜の風景※2



⑦

山から見た西条市の眺め※1



⑧

千町棚田※2



⑨

おしぶの森※1



⑩

中山川溪谷※2



⑪

河原津海岸※1



⑫

永納山からの石鎚の眺め※1

その他：西条高校周りのお堀と植物・田滝地区、高松地区の夜景・市之川のアンチモニー・禎瑞の水辺・カジカ（四国では加茂川のみ）・瓶ヶ森の林道・あじさいロード・庄内地区の石積田園・関屋扇状地・中央構造線（断層露頭）・弘法水・ほたるの里・田園風景（稲・麦）・小松大谷池・高須公園の海岸

**歴史・文化** (西条市景観資源位置図参照 ■ )



13

伊曾乃神社※ 1



14

西条陣屋跡 (お堀も含む) ※ 2



15

久妙寺※ 1



16

西山興隆寺 (紅葉時期) ※ 1



17

香園寺※ 1



18

近藤篤山旧邸※ 1



19

観念寺※ 1



20

樋門※ 1



21

佛心寺※ 1

その他：小松舟山古墳・周布の古い屋敷・本善寺の土塀・11号線大頭の旧石根郵便局・光明寺・石鎚神社・前神社・高尾城跡・保国寺・鉾山跡・極楽寺・小松藩一万石サミット・古い住宅や町並みの保存・氷見森家・古い社寺の保存

**生活** (西条市景観資源位置図参照 ■ )



22

西条祭り※ 1



23

アクアトピア水系※ 1



24

アサヒビール園※ 1



25

鉄道歴史パーク※ 1



26

武丈公園※ 1



27

周ちゃん広場※ 1



28

小松丹原笹祭り※1



29

ハイウェイオアシス※1



30

東予国民休暇村※1

その他：果物キウイの産地（丹原）・街並み（伊予銀行前通り・古川）・旧木原眼科・市民の森からの夜景・東予運動公園・夏彩祭・ひうち運動公園・鉄道歴史パーク・小さな集落の神社のお祭り・総合福祉センターや図書館・西条市文化会館・大保木ふれあいの里・芋たき

---

画像参考出典

※1：西条市観光協会『いまどきの西条』引用

※2：西条市ホームページ引用

## 【昔と今で比較】

### 人口

西条市の人口は平成 16 年合併後の平成 17 年国勢調査では 113,371 人でした。平成 25 年 3 月末日では 113,127 人であり、人口は横ばい傾向ですが、少子高齢化と核家族化の進行から世帯数は増加していますが、世帯人員は減少しています。田園や山林を維持するための担い手が不足し、お祭りも次世代へ引き継ぐことができていない問題があげられています。

- 中山間部では、人口が減少していることによって、千町の棚田や過疎地の田畑の担い手が不足している。地域活性化に向けてボランティアや若い人を集め、農家民泊や農業体験等、都会の人が入りやすい地域にする必要がある。
- 西条祭りが年々拡大したがタイヤでの運行が増えた。
- だんじりも人が減り継続が難しいところもある。見せる祭りより参加する祭りになっている。神様ごとという祭りの本質や意味を若い人に教えなくてはいけない。
- 山間部の過疎化の進行による荒廃、道路の整備。
- 大企業立地による県外移住者の増加による住宅環境変化。

### 失われたもの

地球温暖化や人の生活に合わせた環境の変化により、カブトガニの減少、山林の破壊、歴史的な建物等、西条市の景観にも多数の影響がでています。昔から大切にされてきたものを次世代へ引き継ぎ、守るという大切さに気づかされています。

- 大明神川の松並木が今はなくなった。
- 住宅が増え、狭くなった廃園が多くなり景観が悪くならないか心配・生き物（どじょう・めだか）が減り外来種（ジャンボタニシ）が増えてきた。ビオトープなどの整備で、ほたるが戻ってきたところもあるが、加茂川上流は改修などにより自然や人がいなくなった。市之川鉦山跡を開発・アンチモンの結晶が出た。台風・地すべりで行けない所がある。
- 陣屋門・旧木原眼科はレトロな風情のある建物・古い町並みが旧西条に減ってきている。
- ひうちの埋め立て地造成による景観の変化（工場群の立地・昭和 50 年ごろ）。
- カブトガニの減少（埋立・護岸工事などの影響）。
- 中山川の開発の影響による自然環境の変化（生活・住環境整備・利便性向上のための自然破壊）。
- 地球温暖化の影響：雑草の育成が早い・紅葉の色づきが悪い・農作物や魚介類の生態変化。
- 自然環境の変化：伊予製紙付近の改善・小川の流水減少・自然海岸の減少（新産都計画）・道路建設に伴う自然破壊。

## 改善が必要なもの

生活をしている中で気づいた課題があげられています。空き家の増加などによる防犯の対策や駐車場、道路整備、電柱の埋設化、広告・看板の増加などルールが必要なことがあげられています。

- 駐車場が少ないので整備したらどうか。
- 空き家の増加と取り壊しをどうするか。→管理している人がいなくて、危険なのではないか。
- 大規模店舗による変化（車社会）。
- 市之川鉦山跡の道路整備・環境整備をやっていく。
- 商店街の衰退（大資本の進出による地元資本の衰退）。
- 電線・電柱の乱雑さが目立つ→埋設化（名勝地を重点に）。
- 山間部に仕事の間が増えることで過疎の防止と活性化、特色・特性を生かして魅力向上させる。
- 市街地：街路に電線が多く張りめぐらせている・広告や看板の増加・外国人の居住増加・マンション（高層住宅）増加・旧日本家屋の減少（旧藩時代の武家屋敷跡等）・中心市街地の個人商店の閉店（周辺大型店出店影響）・田んぼや耕作面積の減少。

## これからも守り育てるべきもの

今も昔も変わらず大切にされている景観も数多くあります。自然では石鎚山・桜・水風景・田園風景、歴史では陣屋跡・西山興隆寺の紅葉など、これからも守り育てるべきです。武丈公園は美しくなったという意見もあり、このまま維持していかなくてはいけないことが分かります。

- 石鎚山は昔も今も変わらず、他県からのお客も多く、繋げていく必要がある。
- 断層（中央構造線・湯谷口）の存在・認知度UP。
- 西条陣屋跡など歴史を知れる場所は大切に守らなくてはいけない。
- 西山興隆寺の紅葉は美しい。
- 武丈公園は今も昔も市民がよく行く憩いの場・ここ20年ぐらいで特に美しくなった。
- 桜の名所の維持をどうしていくか。
- ひょうたん池石田地区の桜の景観保存。
- 難波の田園風景・水辺の風景・田滝・栄納山からの夜景。
- 西条市内アクアトピア水系（新町川などの水辺の環境）を美しく保全。
- 東予港の拡充による利便性の反面→アサリなどの減少による自然変化。
- 禎瑞の難波樋門の景観を残す。
- 乙女川の川狩りの行事を残す。
- 観光客を集めることができるまちにしたい。

## (2) 西条市景観の課題

第2回ワークショップでは、西条市における景観の「残していきたい・伝えるべき景観」と「悪い景観」、そして「市民（行政・住民・企業）としての課題」「継続の上での課題」「改めればと思う課題」「もっと伸ばせていける課題」を自然・歴史文化・生活に分けて抽出致しました。（課題表別紙参照）

### 人と自然の共生景観

自然の課題については、自然豊かだからこそ、自然破壊、森林の荒廃、海岸のゴミ、耕作放棄地など守り育てることが出来ていないことが課題となっています。

一人一人が心がけることやできることがあると言えます。無関心ではなく市民として誇りを持ち、問題意識を持ち、行政に頼ることなく個人ができることについて話し合う必要があります。身近にありすぎて良さに気づかないことは、教育の場や自然と触れ合うことのできる学びの場などを作ることや、情報を発信することが求められており、いつの日か子ども達が西条市の豊かな自然に気づき、西条市に帰りたいたいと思えるまちになるよう方策を考える必要があると言えます。

### 次世代へ繋げていく歴史景観

歴史の課題については、神社・寺・祭り・お墓を大切にしないことや維持できないこと、本質を理解し伝承できていないことがあげられました。歴史を正しく知った上で、子ども達に知識を教える必要があります。継承の工夫や、文化財の活用方法など個人が出来ること、考えることが大切であると言えます。

### 地域の個性を大切にする生活景観

生活の課題については空き地や空き家の増加、統一性のないまちなみやゴミ問題、お祭りのマナーなどがあげられました。個人の出来ることもあるとはいえ、西条市の核家族進行による継承することの課題については、行政との連携が必要不可欠である。まち並については西条らしいものを目指すような拠り所や指針、連携を作ることやコミュニケーションをとるための工夫も大切であると言えます。

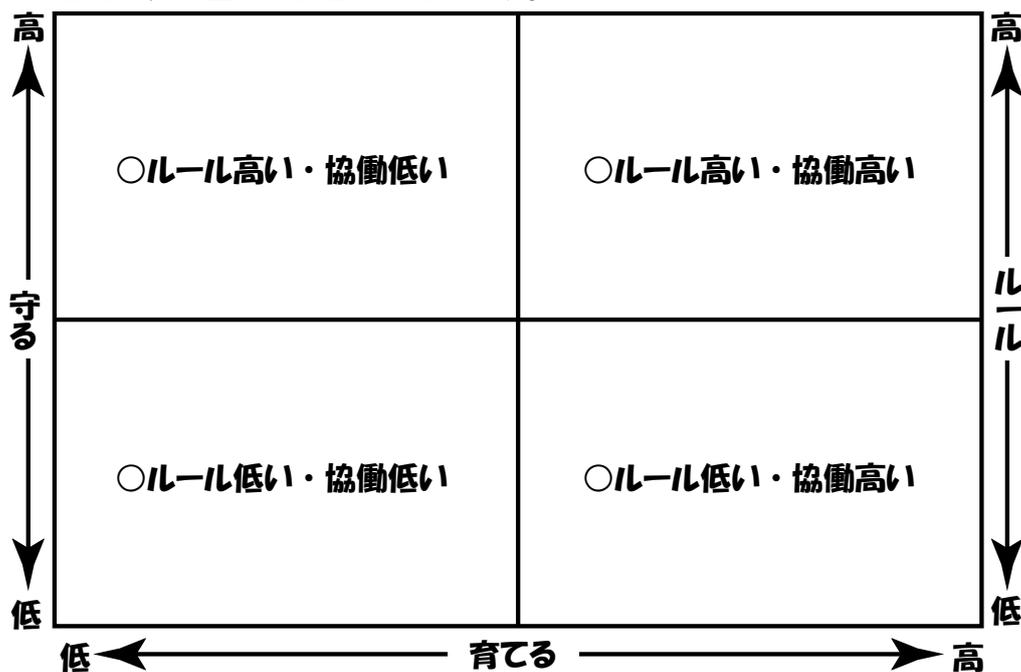
要素		自然
課題	西条の残していきたい・伝えるべき景観	<ul style="list-style-type: none"> <li>昔からある並木(サクラ・マツ)や大樹や川を大切にしたい(鎮守の森)</li> <li>石鎚山連峰景観(仰ぎ見る景観作り)</li> <li>西条らしい農村風景</li> <li>山・河・海が全てある</li> <li>うちぬき・桜のある場所・海岸(禎瑞の水の風景)</li> <li>加茂川の清流(中山川・加茂川・湯谷口渓谷)</li> </ul>
西条らしくない課題	西条の悪い景観はどんな所ですか?(理由も)	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然を破壊すること・森林の荒廃(保水力がなくなっている)・水に向き合っているか・生態系に配慮しているか</li> <li>海岸(ゴミがある)・公園(使用されていない)</li> <li>山林整備が出来ていない・山間地域粗大ゴミの放置</li> <li>農地(放置される)</li> </ul>
	市民(行政・住民・企業など)としての課題は何ですか?	<ul style="list-style-type: none"> <li>アサヒビール株式会社のようにビール1本につきいくらというように森林保全への寄付をする</li> <li>無関心、大変だと分かっているが、やると大変なのでおまじ腰になること/思考停止・水問題の水源涵養林は行政が中心となっているが住民や企業が参加し山を守る・みんなの協働作業</li> <li>身近にありすぎて良さに気がついていない</li> <li>住民の心がけはどうか・行政の管理体制はどうか</li> <li>保全・管理</li> </ul>
	継続の上での課題は何ですか?	<ul style="list-style-type: none"> <li>人口減少・地域の素晴らしい自然を大切にしているか</li> <li>管理費用について対応できるか</li> <li>問題意識が低い(行政に頼り過ぎない)</li> </ul>
	改めればと思う課題は何ですか?	<ul style="list-style-type: none"> <li>単一的な整備(地域の個性を生かした方がよい)・自然に背を向ける(無関心)</li> <li>防災意識を高める(皆さんの意識も高めていく)</li> <li>行政によるゴミ放置等の監視</li> <li>行政に頼りすぎず、個人個人が出来ることを自分たちでやる・自助努力</li> </ul>
	もっと伸ばさせていける課題は何ですか?	<ul style="list-style-type: none"> <li>山から海までの西条らしい自然を守り繋ぎ作る</li> <li>森林再生や海辺環境など里海づくり</li> <li>西条に風景街道をつくりたい</li> <li>自然と触れ合う機会を増やす</li> <li>教育が大事・西条に帰りたいという街にしたい</li> </ul>

要素		歴史
課題	西条の残していきたい・伝えるべき景観	<ul style="list-style-type: none"> <li>昔からある伝統文化(武家屋敷・建物など)を守る</li> <li>陣屋等の史跡を有する(市の川筋山・高峠からの景色)</li> <li>伊曾乃神社・伊曾乃台地・西条陣屋跡(周辺)・石岡神社・永納山城跡・西山興隆寺・近藤篤山邸・藩の史跡</li> <li>西条まつり・千町の棚田</li> </ul>
西条らしくない課題	西条の悪い景観はどんな所ですか?(理由も)	<ul style="list-style-type: none"> <li>古きよき物を残すことができていない(新しいものにすぐなってしまう)大切にしない・維持できない</li> <li>祭りの本質が伝えられていない</li> <li>神社・寺・お墓(人がいないため、野ざらし状態)管理不足</li> <li>旧武家屋敷の景観の衰退か</li> <li>歴史の認識不足・職人不足</li> </ul>
	市民(行政・住民・企業など)としての課題は何ですか?	<ul style="list-style-type: none"> <li>歴史あるものの保存や活用、そして復元までできないか・古い物の歴史を正しく理解する</li> <li>文化財の活用</li> <li>人員不足をどう対応するか(付近の住民の方で出来ないか)</li> <li>若者の歴史離れ・歴史的行事の継承と伝承(お盆行事・銀納義民・天正の陣等)</li> <li>知識(ここが素晴らしいとか・・・)</li> </ul>
	継続の上での課題は何ですか?	<ul style="list-style-type: none"> <li>歴史的な場所や建物について由緒書などを明記し、広く伝える</li> <li>常日頃、歴史の大変さを多くの人が考えていない・地域住民と行政等が行い、地区外・住民などの話し合いをしたり、合同で行うなどの方法をとってはどうか</li> <li>付近住民での管理ができるのか(意識改革)</li> <li>文化財保存費用の補助・伝承芸能の継承の難しさ・問題意識が低い(行政に頼り過ぎない)</li> </ul>
	改めればと思う課題は何ですか?	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域は市任せ・市は地域任せ・伝統文化の継承の工夫</li> <li>行政に頼りすぎず、個人個人が出来ることを自分たちでやる・自助努力</li> <li>西条の歴史をしっかり学ぶ・教える(学校でも)</li> <li>電柱整備など景観を良くし(祭りなどの事故が減る)</li> </ul>
	もっと伸ばさせていける課題は何ですか?	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育が大事・西条に帰りたいという街にしたい</li> <li>人口の増加</li> <li>学校教育の中で地域の歴史や各地域の歴史活動を多く取り入れる</li> </ul>

課 題	要 素	生 活
西条の残していきたい・伝えるべき景観		<ul style="list-style-type: none"> <li>・祭りや伝統などまちごとに残っている風習(子ども達に継承していくこと)</li> <li>・西条らしさのある町屋・商屋建築のたたずまい・生活から生まれた素朴な風景を残してほしい</li> <li>・調和のとれた産業地域(石根の郵便局・調和のとれた工場群、住宅、農地等の線引き)</li> <li>・文武公園・小松中央公園・祭り・丹原七夕祭り・アクアトピア水系・水・うちぬき・鉄道歴史パーク</li> </ul>
西条らしくない課題	西条の悪い景観はどんな所ですか?(理由も)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空家や店舗(防犯も悪い・私用されていない為、建物が古くなり崩れる)・田畑の荒廃・人口の減少も要因</li> <li>・地域ごとの個性を大切にしていない(単一的)・建物外回りのまちなみデザインの要素を大切にしていきたい(バラバラ)・車の優先・無計画な宅地開発</li> <li>・電柱の埋設・限界集落(人と人の繋がりが減っている)・割と利便性を優先してしまう</li> <li>・景観の維持が行政任せになっている・道路(ゴミが捨てられている)・マナーの問題・祭りなど)・ゴミステーション(犬や鳥のいたずら)</li> </ul>
	市民(行政・住民・企業など)としての課題は何ですか?	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西条らしいものを目指すような拠り所や指針や連携がない・市民生活とまちづくり統一の連携・地域ごとの生活文化を守り伝えること</li> <li>・お年寄りから子ども達までが一緒になってできるのか</li> <li>・水資源に感謝しつつ守る(水辺のゴミ)</li> <li>・空家の処分解体をどうするか・森林の管理方法</li> <li>・農業後継者の育成・支所機能の充実(サービスが不便・ダウンロード)はできないか</li> </ul>
	継続の上での課題は何ですか?	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣同士の無関心・コミュニティスペースをどうしていくか・井戸端会議が出来る場所</li> <li>・少し不便でも昔からのものを大切に残したいという気持ちになれることも大切である</li> <li>・継続していく上での行政の課題では空家家の処分や土手除草の費用補助と防災対策という意見があがった。</li> <li>・行政の対応でできるか(空家処分等)・土手の除草の費用の補助・防災と高齢化の問題</li> <li>・地元に残る仕組み(便利で仕事があること)(火災・地震・避難等)</li> </ul>
	改めればと思う課題は何ですか?	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの看板の乱立・こんなまちや家に住みたいというモデルをつくることが大切</li> <li>・水辺のゴミ拾いをもっと幅広くする・ボランティアをする子どもたちを育てたい</li> <li>・電柱整備など景観を良くし(祭りなどの事故が減る)</li> <li>・自治会への入会率の減少</li> <li>・行政に頼りすぎず、個人個人が出来ることを自分たちでやる・自助努力</li> </ul>
	もっと伸ばせていける課題は何ですか?	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お祭りのマナー・人を呼び込む仕掛け・空家活用</li> <li>・住んでよかったと思えるまちにするためには西条らしさやふるさとを感じられる場所になくしてはいけない</li> <li>・教育が大事・西条に帰りたいという街にしたい・仕事の確保</li> </ul>

### (3) 課題解決の方策

第3回ワークショップでは、「守る・育てる」の方策について話し合いました。下記は参加者の意見を自然・歴史文化・生活にまとめたものです。



## 自然

<p>○ルール高い・協働低い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・無駄な公共事業をやめる</li> <li>・自然環境の保全 (弥生から天狗岳・加茂川から古川河口や登呂峡・湧水群・ゴミ対策や杉林対策)</li> <li>・へんろ道</li> <li>・トイレ整備</li> <li>・案内板(英語)</li> </ul>	<p>○ルール高い・協働高い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活の場所から石鎚山を仰ぎ見て生活したい(背の高い建物など)ルールを行政・事業者・地域住民で決める。</li> <li>・西条の自然豊かな山・川・干潟などの生態系を大切に、どこから私たちのふるさととの自然を見てくださという視点をつくる。</li> <li>・建物の高さ・色・眺め規制も必要</li> <li>・西条市には海水浴場もスキー場もある。自然豊かで今が素晴らしいからルールや協働はいらぬ。</li> <li>・市之川鎰山アンチモニーの市有化</li> <li>・トイレをきれいに維持管理・サイクリングをする方がマナーやルールを守れるような仕組みづくりを行う</li> </ul>
<p>○ルール低い・協働低い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族で気軽に参加できる機会を増やす</li> <li>・竹林整備などボランティア・行政とで整備</li> </ul>	<p>○ルール低い・協働高い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・八景の手法などを使いふるさとの優れた風景を再認識するために風景評価を行う</li> <li>・自然を学ぶ体験を増やすことや学べる場づくり、自然とふれあいやすい環境づくり・家族で身近な所で自然の大切さを知る</li> <li>・1年に1回ぐらい重要な樹木に関しては樹木医が診てまわる</li> <li>・水を守るために掃除をする</li> <li>・災害から守るための環境保護活動を行う</li> <li>・生態系に配慮した開発をする</li> <li>・市民意識の向上・海岸・埋め立て前の風景に戻す・カブトガニ保存</li> <li>・河原津海岸の整備・清掃活動・自然保護</li> </ul>

## 歴史

<p>○ルール高い・協働低い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・西条文化財登録制度の整備・永納山城の保存・伝承(国の指定)</li> <li>・市民による文化財に対する保存意識を高める建物・看板・色の規制も必要</li> </ul>	<p>○ルール高い・協働高い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的・伝統的建物は保存・活用してほしい</li> <li>・行政・持ち主・地域住民というが、持ち主は守るのが大変</li> <li>・歴史が建物の統一看板を作ることや、複数残る場所で地域の特徴・物語を活かしつつ、アピールするための西条美観地区を作ってほしい</li> <li>・アクアトピア水系に添ってカフェやショップを誘致したり、近代化産業遺産(市之川鎰山)などの保存と活用存亡の危機に直面している文化財の保存を早急にする必要がある。</li> <li>・アクアトピアから陣屋における色調の統一</li> <li>・祭りは来客の受け入れ課題・観光や来客の視点でまちづくりを考えていく必要がある</li> <li>看板等を規制する色・大きさ・表現</li> <li>・知識を伝えたりボランティアを育成するガイド協会をつくる</li> </ul>
<p>○ルール低い・協働低い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各地域の文化財を各地域よりピックアップしてもら</li> <li>・歴史的行事行政・継承・伝承を維持する個人が歴史背景を学ぶこと</li> </ul>	<p>○ルール低い・協働高い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史を学べる体験の場を増やす</li> <li>・史跡(市之川鎰山・高峠・千人塚等)をしっかり伝える。</li> <li>・マナーをしっかり守ることや祭りの本質を伝える (今伝えないと忘れ去られる)</li> <li>・歴史的建造物の保存伝承(維持管理・周囲の景観を保持していく)</li> <li>・建物等維持・管理・ボランティアを育成する</li> </ul>

## 生活

<p>○ルール高い・協働低い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域ごとの特徴を大切にした整備を行う</li> <li>・ 色々な道づくり「じゃり道」</li> <li>・ 農業やうちぬきなど使いながら保全する必要がある</li> <li>・ ポスターなどの大きすぎるものは多い</li> <li>・ 商店街を見にくくするなど広告物の乱立</li> <li>・ 空き家・店舗（放置）のルールが必要</li> </ul>	<p>○ルール高い・協働高い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 景観デザインの手法と方法を決め、それを守りながらまちづくりを行う。街灯に統一感を出す。</li> <li>・ 空き家の対策と活用・店舗経営に前向きな若者を商店街に呼べる制度づくりや取り組み・住みやすいまち（生活が安心してできる企業活動・若者の企業のしやすさ）</li> <li>・ 農村風景を守る</li> <li>・ 民間の景観に配慮した取り組みを替える制度がほしい。</li> <li>・ 西条生活スタイルの確立・スーパー等、大型店舗撤去後をきちんとし、緑を植えたり、色合いも考えるなど、自然との調和を義務付ける、</li> <li>・ 来客対応</li> <li>・ 水にも限界がある</li> </ul>
<p>○ルール低い・協働低い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「おせったい」の心を伝える、あったかいまちづくり、</li> <li>・ 3年後の国体のためにも</li> <li>・ うちぬきウォークによるシャッターにだんじり絵巻を描いているなど商店街を活性化させる。</li> </ul>	<p>○ルール低い・協働高い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 伝統的な風習・お祭りなど・・・生活から生まれた風景を大切にす</li> <li>・ 山から海の人まで地域の人々の交流を行う</li> <li>・ 地域で参加できる催しの機会を作る（ボランティア）</li> <li>・ 水辺のゴミ拾い・道路の沿道景観</li> <li>・ 上神拝有志がメインで水系の大掃除</li> <li>・ 地元では玉原七夕を続けることが難しいということもでてくるので行政と一緒に続ける方法を考える。</li> <li>・ 水に関する情報提供を行う。</li> </ul>

### 3. 景観計画策定に向けて

#### (1) 景観ワークショップの考察

##### 1. 西条市の景観特性と課題

- 西条市の景観資源はバリエーションに富んでいます。豊富な自然景観、農山村集落の景観、歴史文化の景観、中心市街地のまちなみ、祭りが織りなす景観等多くの景観資源が掘り起こされました。これらうち、自然景観等は都市計画区域外に存在し、都市計画法による法規制の及ばないエリアばかりです。これ以上、西条市の景観が衰退、美しい景観が失われる前に、景観計画において市域全域を景観区域として定め、景観法を根拠とし、自然景観等の保全に向けたルールづくりが求められます。
- 少子高齢化のさらなる進展が見込まれる中、後継者不足が露見し、広い市域の中で多くを占める農村集落、林地の耕作放棄もしくは管理放棄、市街地では空き店舗・空家の増加に問題があるなど、市民から多くの指摘を受けています。景観計画を定め、西条市らしい景観を「守り・育てる」市民の意識が強くあります。また、中学生に景観アンケートを実施したところ、回収率が90%以上と高い関心を持っていることがわかります。
- 多様なライフスタイルを持つ市民の定住志向の高さ<sup>\*1</sup>を維持するためにも生活環境の保全に景観まちづくりのルールが求められます。
- 高齢化率が全国平均や愛媛県平均を上回る<sup>\*2</sup>西条市は、生き活きと快適に暮らすためにも何気ない日常の景観を守るため、市街地等生活環境の保全、自然景観の保全に景観まちづくりのルールが求められます。
- 第二次総合計画に向けて実施した市民アンケート結果では、「海・山・河川など自然環境の保全」(約55%)と「美しいまちなみや景観の形成」(約37%)に力を入れるべき施策として上位回答に挙げられています。景観まちづくりのルールが求められます。

※1,2は「西条市まちづくりに関する市民アンケート平成25年10月」から引用

##### 【西条市の景観を取り巻く現況】

西条市の人口は113,127人、世帯数は49,464世帯です。(平成25年3月末日)県内では第4位に当たります。平成16年11月1日に西条市・東予市・丹原町・小松町の2市2町が合併し、西条市が誕生しました。

産業では県内1を誇る水田面積で、多くの野菜や果物などの農作物を供給する農業生産都市になっており、合わせて瀬戸内海の水産業も盛んに行われています。周ちゃん広場などの産直市は市外からの来場者もあるほどの賑わう場所となっています。石鎚山の山並みから大切に育まれた水が、都市部ではうちぬきと呼ばれ、生活に必要な貴重な水として利用され、全国的に水の都と呼ばれています。交通の面ではJR予讃線の7駅を有する鉄道、高速道路では松山自動車道といよ西条インターチェンジといよ小松インターチェンジがあります。

7世紀後半に築城された永納山城跡・明治維新までの約200年栄えた陣屋町、東予地方における政治・経済・文化の中心地として繁栄をしてきました。四国霊場88箇所、多数の社寺、旧西条藩陣屋跡、小松藩儒学者近藤篤山旧邸など江戸時代の歴史的まちなみが当時の面影を残すとともに、文化財や国史跡の永納山跡などの史跡等が市内随所に分布しています。

秋には西条祭りが絢爛豪華なだんじりや県内最大と言われている丹原七夕祭りなど各地域の特色ある祭りは観光としても有名あり、鉄道博物館・温泉・アサヒビール園など各種施設も充実しています。

## 2. ワークショップの成果からみた全体的な総括

- 行政任せにしない・・・市民による生活景を守る意識が非常に強い。
- 市民は子供たちが帰りたくなる故郷西条市をつくるため、景観を考えることを意識しています。
- 祭り、四国霊場 88 箇所、文化財等地域の歴史・文化を継承し、子供たちに教える必要性を強く持っており、生活の中で常に見えている景観シーンを守りながら次世代へ継承することで西条市を良くしていくために景観計画の活用を考えています。
- 景観計画策定に向けて、市民の多様な生活時間との関わりを持たせることが重要です。キーワードは「生活景」です。
- 中学生は西条市の景観に関心が強い。（アンケートの回収率 90%以上）

ワークショップは限られた各団体等の参加者ではあったが、景観に関してとても関心があり意欲が高い方ばかりでした。ワークショップで景観の知識も学ぶことにより、多種多様な課題を解決できる成果が伺えます。専門性があり、地域に密着している方たちの大切な評価であります。景観計画を策定する以前に実施いたしました、価値の高い評価となりました。西条市が今後景観計画を策定するにあたり、準備ができました。こうした参加者のもとで行った景観ワークショップの成果について総括いたします。

今回のワークショップでの景観資源は『自然』『歴史』『生活』に分類し意見の取りまとめ、  
評  
価を行いました。西条市は1の特性で述べたように『自然』『歴史』『生活』が豊富であり、それ  
れ  
だけでも景観的価値が高いと言えます。また石鎚山は貴重な自然景観であり、大切な観光資源と  
なっています。地域資源の保全や活用に意識の高い団体が数多くあり、活動が続けられています  
が、どの景観資源にもいえる課題は、保全に必要な人手が不足していることや、後継者が育た  
ないこと、コミュニケーション不足など、人を育成することが最大の課題と言えます。育成につ  
いては、個々で出来ることや、景観資源によっては、専門家を呼んで勉強会などをする必要がある  
と言えます。

自然景観では、石鎚山や加茂川など適正な保全や維持管理が必要であります。都市住民は山間  
部などの正しい知識を知り意識をもつことで様々なマナーの改善にも繋がるといえます。そのた  
めには、知るきっかけとなる活動が必要不可欠です。田園景観では後継者問題解決を、桜のある  
風景など身近にある自然景観でも、マナーやルールを守れるような仕組み作りが必要と言  
えます。

歴史景観では市民の正しい知識や認識不足が保存・活用の課題に繋がっています。観光客の目  
線で知識を伝えるようなボランティアを育成するガイド協会など情報発信の提案が参加者から  
ありました。大切な歴史的建造物を活かしながら、地区を設けて、ルールを決めることも、歴史  
景観を守り育てることの工夫の1つとあげられます。

生活景観では伝統的な風習やお祭りを次世代へどう繋げていくのか、空き地・空き家問題、統  
一された西条らしいまち並みがあげられていました。伝統的な風習やお祭りでは各地域で異なり  
ます。合併前の2市2町の大切な風景を守り育てることが大切です。西条市では個性があるにも  
関わらず、それが何かを市民の1人1人が認識出来ていないことも課題であるが、景観の個性を  
演出できるような景観形成も必要であります。西条らしい景観を目指すような拠り所となる指針

や連携を作ることやコミュニケーションをとるための工夫が必要であると言えます。

## (2) 景観計画策定の方向性

### 1. 景観に関する総合的な計画策定による効果

西条市は、合併後 10 年が経過しましたが、快適な暮らしを実現するためには各地域の個性を大切に、豊かな自然・歴史・生活の景観資源を守り育て次世代へ繋げる必要があります。

これは、各地域の快適な暮らしの実現や空き地や空き家、跡継ぎ問題、継承・維持管理など、あらゆるまちづくりにおける課題にも直接的に関わっていることから、課題解決や観光振興、交流人口の増加による地域経済の活性化も期待されます。

住民・行政・事業者が協働体制を確立することにより、自治能力やまちづくりに係る人材が確保・育成されるとともに住民やまちづくり NPO からの提案が可能な仕組みとなります。

### 2. 景観計画のステップアップ

#### ① 西条市における景観認知など住民の意識向上

勉強会やフィールドワークを実施する

#### ② 住民・行政・事業者の相互理解と協働により発展させる

ワークショップを実施する

#### ③ 他分野との連携

あらゆる関わる分野の計画策定等の連携を図る

・西条市都市計画マスタープラン/西条市環境基本計画/西条市地域交通計画等

### 3. 景観計画(案)策定の流れ

#### ① 景観計画区域を設定する

#### ② 景観形成に関する方針を考える

#### ③ 良好な景観の形成のための行為の制限に関する事項を考える

#### ④ 景観重要建造物又は景観重要樹木の指定の方針を考える

#### ⑤ 屋外広告物の表示及び屋外広告物を提出する物件の設置に関する行為の制限に関する事項を考える

#### ⑥ 景観重要公共施設の整備に関する事項及び景観重要公共施設の占用等の基準を考える

#### ⑦ 景観農業振興地域整備計画の策定に関する基本的な事項を考える

#### ⑧ 自然公園法の許可の基準を考える

### (3) 景観ワークショップの参加者の意向

景観ワークショップの終わりに参加者の方へアンケートを実施いたしました。

#### 1. 調査目的

第3回ワークショップの開催後、参加者に「ワークショップについて」「ルールについて」「協働について」を問うアンケート調査を実施致しました。

#### 2. 調査対象：第3回ワークショップ参加者

回収結果：22人

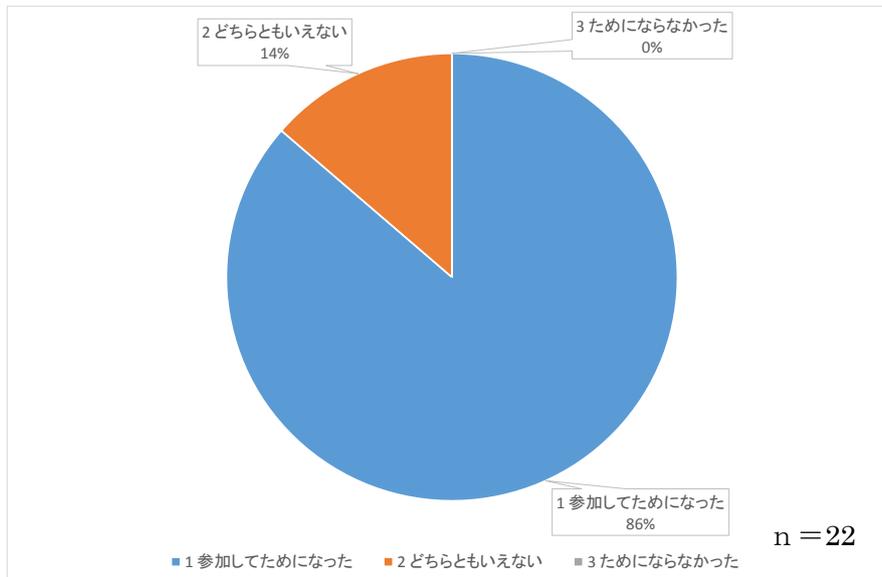
#### 3. 結果

ワークショップについては今後もワークショップや勉強会などがあれば全員が参加したいという意見であり、景観まちづくりルール作成が必要か否かでは多くの人に取り組むべきとの回答でした。協働については、勉強会を開催して集まった市民が作成することや、市民が話し合って景観まちづくりルールを作ることが必要だということが分かりました。

西条市での今後の景観計画策定では、住民との協働による景観づくりにおいて、継続して今回の参加者と進めて行くことと致します。勉強会の開催を行い、参加者を育成し、共にまちづくりの課題解決や景観まちづくりルールを作成することを目的とします。

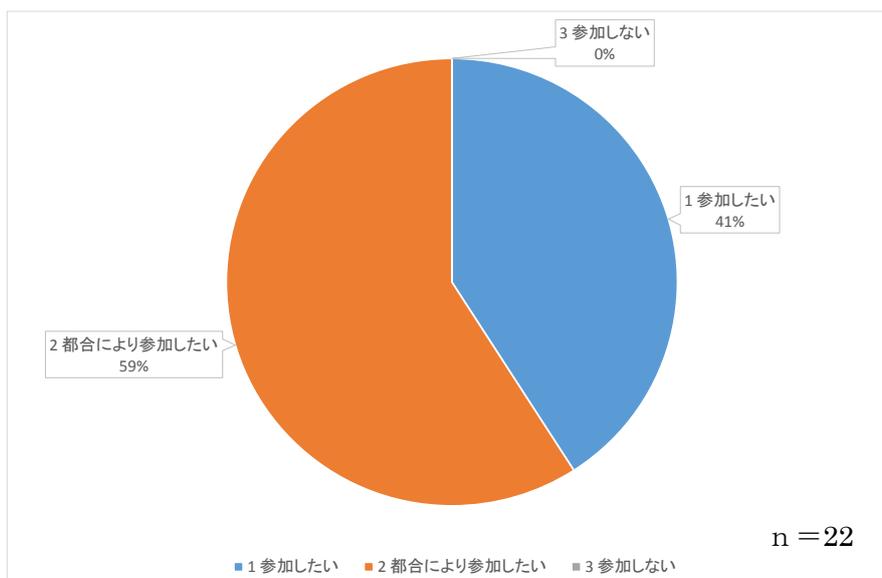
問1. 西条市景観ワークショップに参加して。(該当するもの1つに○)

- ・「参加してためになった」が86%という意見であった。
- ・理由としては、「町の色を決めることが出来る」「景観についての知識が深められた」「西条市の財産の見直しと将来に残す意識が高まった」「多くの想いや意見が聞けたこと」という意見があった。



問2. 西条市景観ワークショップと同様に西条市の景観についての勉強会等に今後も参加したいか。(該当するもの1つに○)

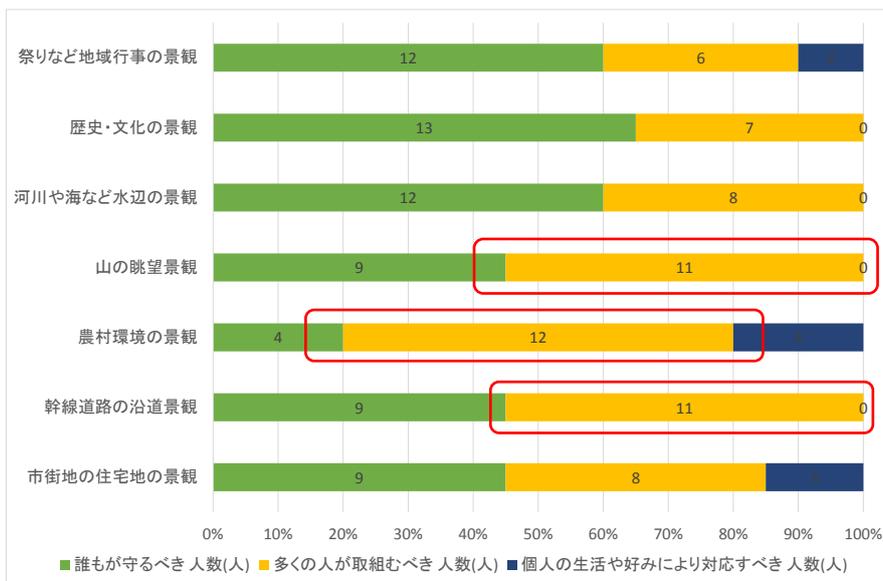
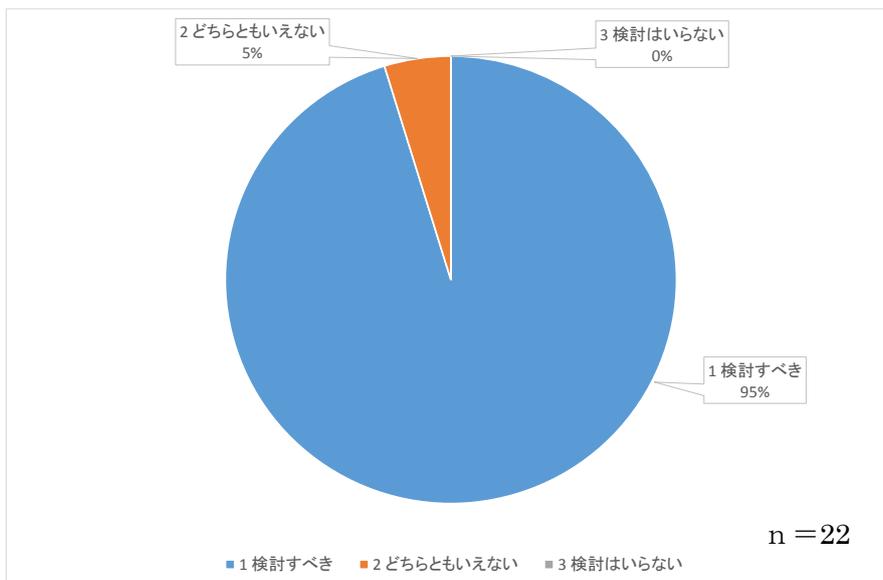
- ・2人全員が「都合により参加したい」「参加したい」という意見であり、今後引き続き景観計画策定を行うことが確定すれば、今回の参加者にご協力をお願いします。



問3. 景観を守り・育てるために景観まちづくりルール案を検討していくべきか。また、どの程度守るべきか。(それぞれの項目で該当する欄に○)

**【検討すべきである】**

- ・景観まちづくりルール案を検討していくべきか伺ったところ、「検討すべき」が95%であった。
- ・どの程度守るべきかを伺ったところ「農村環境の景観」「山の眺望景観」「幹線道路の沿道景観」に関しては多くの人が取り組むべきという結果となった。他の景観に関しては、誰もが守るべきという結果であった。

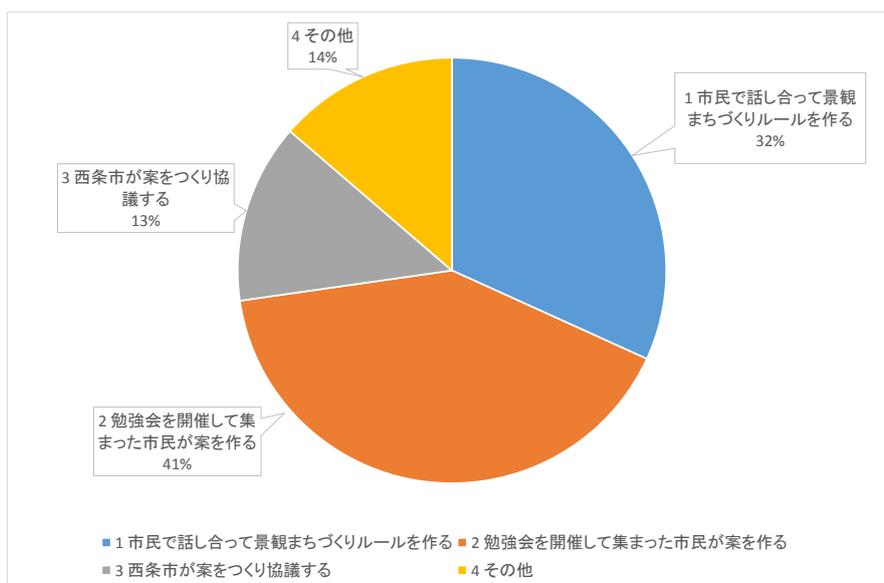


問4. 景観まちづくりルール作成を進める場合、望ましい進め方（該当するもの1つに○）

**【景観まちづくりルール作成について市民で話し合うことが望ましい】**

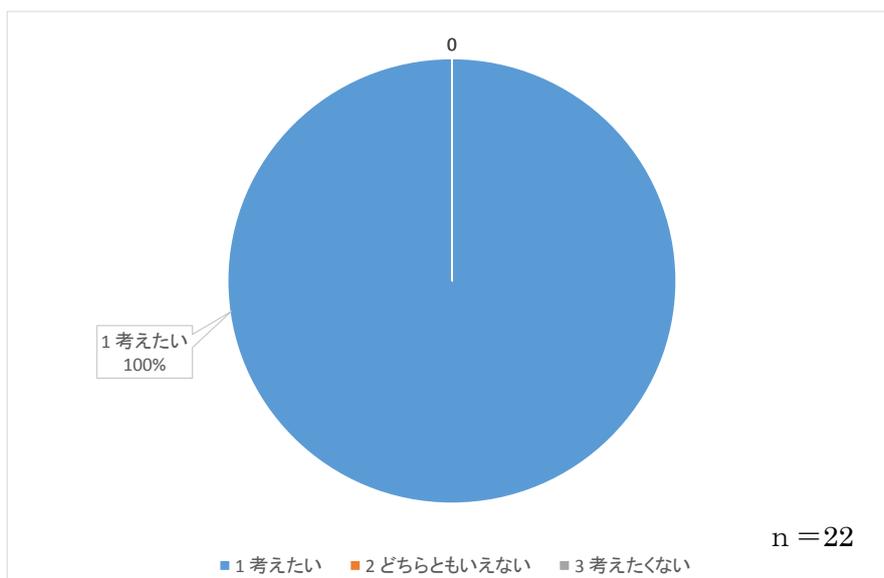
景観まちづくりルール作成の望ましい進め方について伺ったところ、「勉強会を開催して集まった市民が案をつくる」が41%であり続いて、「市民で話し合っ景観まちづくりルールを作る」が32%であった。

- ・その他では「基本例は市が作成した方が良い」「行政と一緒にやるべき」「法令等運用知識は行政協力が必要」という意見があった。



問5. 今後も引き続き、西条市の景観について考えていきたいと思いませんか。

- ・22人全員が今後も景観について考えていきたいという意見であった。



## 問6. 自由意見

- ・今、動かないと消えいく景観があります。例では市之川の鉦山の事が言われており、今住んでいる住民がいなくなると市之川という地名さえ忘れ去られるときが来ています。残念なことは、住んでいる西条の住民がその価値を知らず認識が低いことです。その当時の様子などを伝えることを、公民館にしてほしいです。その様なこともふまえて、西条らしい動線が生まれるといいと思います。例えば旧木原眼科・旧石根郵便局もレトロでいい雰囲気です。楽しむ店を入れ喫茶店業にすると若い方にも喜ばれ人も寄ってきます。古い家の保存にもつながります。新しく若い人の建てる家は近代的なので、このままでは日本の寄棟造り屋根の家もなくなっていく方向です。その点氷見の森家等も残してほしいです。ガイド協会を作るのは大賛成です。
- ・全国的に、景観条例が出来ると、景観を守る動きが起こっているのです。西条市としても市として、市民として残す景観を守る様にすべきだと思います。良好な景観づくりを進めていくには、市民・事業者・行政がそれぞれ自主的に取り組むことはもとより、お互いにそれぞれの役割を理解し、権利や立場を尊重しながら連携・共同による取り組みを実践していくことが必要である。
- ・城下町西条ならではのまちづくりに力をぜひ入れてもらいたい。多方面からも多くの人に来てもらって城下町西条の良さを知ってもらいたい。また市民が思える場所(散策道など)があってもいいのでは・・・(堀のまわりだけではなく周辺全体を考えて)
- ・ふるさと西条・・・景観まちづくりは皆様同様、考えることは同じです。ただ世界(とくにアジア)より人々が観光目的で訪れると思う『西条祭り』をメインに考えるべきと思っています。だんじりを中心に郷土人がひとつにまとまっている姿を見ていただければ、人気は向上すると考えます。さらに新居浜祭りとタイアップすれば旧西条藩(西条+新居浜)時代からの本来のまつりを世界に伝えていきたい。
- ・道路(アスファルト舗装)だけではなく、防災を兼ねていろいろな道路を整備してほしい(砂利道等)公園の整備(増して)ほしい。
- ・西条にはここにしかない守るべき自然や歴史的景観が多くあると思います。これらを後世に残していくにはルールづくりが必要です。ルールづくり、素晴らしい西条を守っていくべきです。
- ・空き店舗の利用しやすい制度づくりを検討してほしい。(意欲ある人の経営を後押しする・他市からの居住・補助金)・西条市の景観まちづくり計画に期待しております・貴重な機会を与えていただき感謝申し上げます。
- ・個人的には重要性を認識していると思うが、現状としては民情から、とりあえず行政当局が音頭をとってくれるのであれば協力するが、それがなければ重要度が低いのではないかと思い、等閑視する考えの方が多いのではないか。個人の、公共性についての考え方を再考する必要があると思う。
- ・西条の良さ、西条らしさを大切にして景観を守り、育て、失われたものは再生するくらいになってほしいです・規制だけではなく市民の皆様が西条スタイルをカッコいい、じっせんしようと思えるように景観行政を行ってほしいと思います・存亡の危機に直面している歴史的・文化的・建物等は保存に向けて緊急に取り組むしてほしいです。(西条の景観を守り・考えるよりどころとなる貴重なものを！)
- ・今回のワークショップではレクチャーの時間や協議の時間をもっと必要ではないかと思っています。一回のテーマを2回で終了するような感じでやってみてはどうでしょうか。
- ・外部の成功例を西条市流にアレンジして積極的に取り組むべき。



